

序

関西大学創立百周年を迎え、これを記念する事業に協賛し、且つ関西大学商学会設立三十年を合わせて記念して、『商学論集』特輯号をここに刊行する。

わが関西大学商学部の沿革は、商都大阪の要請に於て、明治39年、大学部および専門部の中に商業学科として創設された。さらに大正11年の大学令にもとづき商学部へと発展、その後若干の紆余を経るが、戦後新制大学の発足とともに、法、文、経の諸学部と並んで商学部となり今日にいたっている。

現在、商学部の専任教員スタッフは40名に充実し、その研究分野も商学、貿易、会計、経営あるいは一般経済等広範で多岐にわたっている。そうして本特輯号にみられるとおりすぐれた研究成果を世に問ひ、それぞれの学会においても高い評価を受けている。また、その研究の成果を大学教育の現場に生かすのが一つの「学の実化」であるが、いうまでもなくわれわれ教員一同それに全力投球を行ってきている。

今回、この記念特輯号に33名という多数の記念論文を上梓することができたことは、誠に喜ばしいことである。加えて昭和56年度と58年度の商学部交換教授として御来学されたシュミット教授（東ドイツ）およびコーラッチ教授（ユーゴスラビア）の玉稿によって花をそえていただいた。

関西大学の専任教員の研究成果の発表は昭和9年『関西大学研究論文集』の創刊をもって嚆矢とする。その後戦時下の中断を経て、昭和25年『経済論集』が刊行され、商学部スタッフの研究成果もこれに発表されることになった。こうした過程の中で大学創立70周年を契機に商学部が独自の研究活動を充実・拡大すべく、昭和31年4月関西大学商学会を設立し、『商学論集』を

発刊することになった。

従って今年は奇しくも商学会設立および『商学論集』創刊30周年を迎える。これを機会に商学会設立当初の苦勞談とその後の事情そして今後の商学会のあるべき発展方向等を山崎紀男名誉教授、植野郁太教授をはじめ各世代にわたる諸先生に集って語っていただく企画をもった。そうして、関西大学創立百周年にあやかって商学会設立30周年をも祝って「関西大学商学会三十年の歩みと商学部の発展によせて」を本特輯号の第二部として掲載した。

われわれは関西大学創立百周年・関西大学商学会設立三十周年を記念し、これを祝うとともに、今後の関西大学および商学部の一層の充実・発展を願望し祈念する。同時にわれわれは、研究と教育により一層研鑽、邁進する決意を新たにするものである。

昭和61年11月4日

関西大学商学部長 生 田 靖